

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103185		
法人名	医療法人 慈恵会		
事業所名	グループホーム ザ テラス西田橋		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 西田1丁目11番地1		
自己評価作成日	平成23年2月26日	評価結果市町村受理日	平成23年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	なし
----------	--------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成23年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当ホームは鹿児島中央駅や中央郵便局が徒歩10分内にあり、交通機関の利便性に恵まれています。また、スーパーや公園も近く、散歩を兼ねて買い物したり、春と秋に行われる甲突側沿いの木市を見学して、季節を肌で感じています。建物はビルの4Fと5・6Fにあり、桜島や観覧車が見えます。「ゆっくり やさしく おだやかに」を理念に掲げ、入居者様がゆっくりとその人らしく生活出来るように職員が一丸となってケアをいたします。また、運動会や地域での夏祭りや六月灯、桜やコスモスの花見、そめん流し等、さまざまな行事があります。</p> <p>今後も地域の方々と交流をさらに深めていきたいと思っております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>鹿児島市の中央に位置し、交通の便もよく近くに同法人の老人介護施設や病院もあり、家族の安心につながっている。6階建ての4～6階部分にあるホームで窓からの眺めもよい。職員は理念を基盤に入居者のペースに合わせた介護を心がけ、入居者の意見を尊重しその人らしく生活できるように日々のケアの振り返りを行うようにしている。地域の行事に参加したり、ホームの行事に地域の方を招く等、交流に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり やさしく おだやかに」と、地域に向け、「地域に根ざした施設として 地域との結びつきを重視し 地域活動に積極的に参加する」を理念に職員一同実践につなげている。	入居者の希望や意思を尊重し個々のペースにあわせたケアに心がけている。地域の行事への積極的な参加や法人行事への地域の方の参加も呼びかけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	同法人施設の運動会や地域行事の六月灯や町内の夏祭りに参加している。近所の美容室を利用したり(訪問もあり)、また、買い物時や散歩時に挨拶を交わしている。	地域の六月灯や夏まつりにはボランティアの協力もあり、入居者全員が参加できている。又、同法人の広報誌を町内会で回覧してもらい法人の運動会等に地域の方も参加し交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学、高校生の職場体験を受け入れて認知症を理解したり、実習の場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者へのサービスの向上のために現状の報告や今後の取り組み等を行い、家族や地域の方々からの意見やアドがイス等を頂き、今後の方針に活かしている。	地域の方・入居者・家族・行政担当者の出席があり、年4回の運営推進会議を開催している。ホームの現状報告や行事等の情報交換の場となっている。	現状報告に留まらずホームの困っていることや地域に求めたいこと等、問題提起されサービスの向上につながる会議を年6回開催されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、施設の運営を相談したり、地域の施設として理解してもらっている。また、生保の入居者に対して、市の相談員の訪問等も行っている。	包括支援センターの担当者とは、気軽に相談できる関係を築いており、情報・アドバイス・助言をもらっている。市の介護相談員の受け入れも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束をしないようにマニュアルや研修に参加したり、勉強会を行っている。	個々の状況に合わせ量を敷いたりして工夫している。帰宅願望のある方にはその都度対応している。法人内の研修はあるが、ホームでの勉強会には至っていない。	「指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」についてスタッフ全員が理解できるようマニュアルの整備や勉強会を行うことを望みます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設で高齢者虐待防止のマニュアルを作成し、職員がしっかりと認識できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレット等にて勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等の改訂の際は、改訂後の契約書を作成し、説明の後、サイン、捺印を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会議を設けて職員や運営推進委員と話し合いをしている。	年に2回ホームの行事に合わせ家族会を開き和気藹々と気軽に話せる場となっている。面会時には日頃の本人の様子を伝え又、家族の思いや考えを伺う機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、法人委員会に参加したり、職員会議等を設け、施設運営に対し、話し合いを行っている。	スタッフ全員が法人の各委員会に所属しており、発言の場となっており、内容は持ち帰り全員に周知している。職員同士は何でも話せる雰囲気があり、月1回の職員会議においても活発な意見交換が行なわれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一般事業主行動計画策定により、4月から整備に入る予定である。個々の能力を把握して、給与等に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、法人内の勉強会に参加しており、学びや復習の機会になっている。また、外部の研修も参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会に加入しており、研修等に参加している。今後も職員間の交流や見学が出来るように検討していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話や面接、家族からの聞き取り、また情報提供書等で理解を深め、サービス導入をスムーズにすすめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にグループホームに見学に来ていただき、雰囲気を感じてもらった。また、家族等からの質問や意見を聞き、不安等を少しでも解消出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合い、情報収集の中から具体的な支援方法を考え、提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として家事や習わし、料理や歴史等を学ぶことも多い。おたがいが支え合うような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月施設での様子や体調面を報告するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで利用していた美容院を引き続き利用したり、買い物に行ったりしている。	天気のよい日はできるだけ散歩に出かけ近所の方と挨拶するように心がけている。近所の自宅まで散歩する利用者もいる。又、馴染みの美容院を利用する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を理解し、レク等での交流の場を作ったり、座席の配置を変えたりバランスを考えて孤独感を感じないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中に面会に伺ったり、家族との情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話等で希望や意向を知り、出来るだけ希望に添うようにしており、家族にも協力を得る様にしている。	入浴・散歩・買い物等1対1での対応時にゆっくり話をするよう心がけている。お茶の時間にはスタッフも傍に座って話をするようにし、得られた情報は連絡ノートや介護日誌に記載し、スタッフ全員で共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や情報提供書等から必要な情報を収集し、その人の望む生活に近づけるよう日々のケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活スタイルや毎日のバイタルチェック、日々の記録から情報収集を行い、一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議で話し合い、本人が望む生活に近づける様に介護計画を作成している。	介護日誌にスタッフが記載した日常の気付き等、ケアについて月1回の職員会議で話し合っている。2ヶ月ごとにモニタリングを行い計画変更時には必ずスタッフに声かけし確認するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録に残し、情報の共有に努めており、統一したケアを提供している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制や、通院介助、美容院、外食、買い物等、本人家族の状況、要望に合わせて事業所の多機能性を活かして柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源や地域の方々に協力を得ながら生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの専門のかかりつけ医に定期的に受診して適切な処置を受けている。また、主治医にも受診後の情報を提供しており、連携して対応している。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。同法人の病院より2週に1回の割合で往診がある。家族が通院介助を行う際は家族へ状態説明を口頭で行っている。スタッフが通院介助をすることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや会話等での気づきで変化があれば併設病院に報告を行い、適切な支援が受けられる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換を行っており、早期に本人や家族と話し合う機会を設けて対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時や終末期等について家族と話し合い、方針を定めている。併設病院とも連携して支援に取り組んでいる。	看取りの例はないが、重度化や終末期に向け、ケアの質の向上に繋がるよう勉強会を行っている。前年に指針の作成について計画していたが、作成に至っていない。	重度化や終末期に向けた指針を早急に作成しスタッフ全員で共有されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等で定期的に学び、発生時に対応できるように備えている。また、併設病院に連絡して早期対応を心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定して避難訓練を行ったり、併設病院や施設と連携して避難出来るようにしている。水害時は地域の方が避難場所として活用できるように考えている。	災害時は法人施設からもすぐに駆けつけるよう連携をとっている。スプリンクラーの設置も済みであり、現在は地震時の家具の転倒防止も検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である入居者を尊重し、ケアの一つ一つにも注意を払っている。特に言葉かけには気をつけている。	居室のドアは必ず閉めておくようにしている。トイレ誘導時の声のかけ方・声の大きさには特に気をつけるよう努めている。人生の先輩として敬うことを大切にスタッフ全員が対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の望む環境を提供できるように会話を通しての聞き取りや、自己決定のために時間をかけて働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事に、職員は寄り添う介護を心掛け、できるだけ本人の希望を叶えられるように職員間で連携して支援している。(外出等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人に選んで頂たり、家族にも協力を得て季節に合った物を持ってきてもらい、その人らしさが伺える様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを職員が理解しており、誕生日や行事等で提供している。また、家事動作を好まれる入居者には料理の下ごしらえや食器洗い等も一緒に行っている。	野菜の下ごしらえ・テーブル拭き・下膳・食器洗い等利用者と一緒に行っている。食材の買い物も一緒に行っている。食事は職員も一緒に同じテーブルで行い、さりげない介助や声かけをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量を把握し、記録している。また、食べやすいように個々に合わせて提供したり、能力に合わせて食事介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの言葉かけやケアを行っており、義歯や口腔内の観察を行っている。定期的に歯科の訪問診療も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はオムツカバーを使用せず、トイレでの排泄を促したり、定時でのトイレ誘導を行っており、スムーズな排泄を促している。	個々の排泄パターンを入所時から把握するように努め、小まめにトイレ誘導をすることで失敗が減少している。又、夜間はポータブルを使用し、日中はトイレでの排泄を促したりと個々の状況に応じて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料(ミルミル)や牛乳を提供して便秘の改善や体操や排泄を促すためのマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3日入浴日を決めている。その日は1日中入浴のため、それぞれ好きな時間にゆっくりと入浴して頂いている。入浴拒否等は見られない。	本人の希望と合わせながら週3回の入浴が出来るようチェックを行い、声かけをしている。気持ちよく入浴できるよう浴室の清掃をこまめに行い、清潔が保たれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時に居室やソファで休息がとれるように配慮しており、周りに気を使わずに支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書があり、いつでも確認出来るように掲示している。 誤薬が無いように職員間で氏名、日にちの確認を行ってから提供して、確実に服用できたか確認している。内服薬の変更時は記録に残し、病院へ報告出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や会話等から望んでいる事を伺い、楽しめる役割として支援している。(家事動作、散歩、塗り絵等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される方には、ゴミ捨てを兼ねた散歩を提供している。また、家族に外出(自宅等)を促している。	車椅子の方も天気の良い日は近所へ散歩に出かけている。ごみ出しがたら施設周辺を散歩したり自宅が近くにある利用者は散歩の途中で立ち寄り、ご仏壇のお参りもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所の金庫内で管理しているが、嗜好品等の買い物時は自由に使える様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出があった場合は電話で話してもらったり、知人からの電話をつないだりして、今までの関係が維持出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて気温の調節や直接日光が当たらないように配慮したり、TVの音量や電灯の明暗を確認している。また、台所やトイレは定期的に換気扇で換気を行っている。壁には季節の掲示物を作成し、掲示して季節感を感じている。	居心地の良さから、6階に居室のある利用者は日中殆ど5階のホールで過ごし、必要時に居室に行き来している。 ホールのテーブルに座る位置は殆ど定着したものがあがるが、テレビ・ソファの配置を工夫している。季節を感じる花を生けたり、壁に掲示したりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆっくりと一人で過ごしたり、また、テーブルを付けたり、離したり人数に合わせてそれぞれの空間の提供を行い過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それまで使用してきた物を出来るだけ入居後も使用してもらうため、タンスや小物類、食器等のなじみの物を持ち込んでもらい、自宅での生活に近い空間のように居心地良い工夫をしている。	ベッド・収納タンスは備え付けのものであるが、衣装かけ・椅子・収納ケース等は持ち込んで貰っている。家族写真・テレビ・ラジオ・人形等、居心地良く過ごせるように配置し、飾りつけの工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの状態を職員は理解しており、常時見守りの中で、その方に合ったケアを支援し、自立に近い生活の提供を行う。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

目次	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり やさしく おだやかに」と、地域に向け、「地域に根ざした施設として 地域との結びつきを重視し 地域活動に積極的に参加する」を理念に職員一同実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同法人施設の運動会や地域行事の六月灯や町内の夏祭りに参加している。近所の美容室を利用したり(訪問もあり)、また、買い物時や散歩時に挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学、高校生の職場体験を受け入れて認知症を理解したり、実習の場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者へのサービスの向上のために現状の報告や今後の取り組み等を行い、家族や地域の方々からの意見やアドがイス等を頂き、今後の方針に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、施設の運営を相談したり、地域の施設として理解してもらっている。また、生保の入居者に対して、市の相談員の訪問等も行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束をしないようにマニュアルや研修に参加したり、勉強会を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設で高齢者虐待防止のマニュアルを作成し、職員がしっかりと認識できるように努めている。		

項目	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレット等にて勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等の改訂の際は、改訂後の契約書を作成し、説明の後、サイン、捺印を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会議を設けて職員や運営推進委員と話し合いをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、法人委員会に参加したり、職員会議等を設け、施設運営に対し、話し合いを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一般事業主行動計画策定により、4月から整備に入る予定である。個々の能力を把握して、給与等に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、法人内の勉強会に参加しており、学びや復習の機会になっている。また、外部の研修も参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会に加入しており、研修等に参加している。今後も職員間の交流や見学が出来るように検討していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話や面接、家族からの聞き取り、また情報提供書等で理解を深め、サービス導入をスムーズにすすめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にグループホームに見学に来ていただき、雰囲気を感じてもらおう。また、家族等からの質問や意見を聞き、不安等を少しでも解消出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合い、情報収集の中から具体的な支援方法を考え、提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として家事や習わし、料理や歴史等を学ぶことも多い。おたがいが支え合うような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時等を利用して、現状の報告を行い、本人の「今」を知って頂ける様に努めている。入居前の様子を知る事でよりよいケアに繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の面会も積極的に促している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を理解し、レク等での交流の場を作ったり、座席の配置を変えたりバランスを考えて孤独感を感じないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中に面会に伺ったり、家族との情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話等で希望や意向を知り、出来るだけ希望に添うようにしており、家族にも協力を得る様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や情報提供書等から必要な情報を収集し、その人の望む生活に近づけるよう日々のケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活スタイルや毎日のバイタルチェック、日々の記録から情報収集を行い、一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議で話し合い、本人が望む生活に近づける様に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録に残し、情報の共有に努めており、統一したケアを提供している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制や、通院介助、美容院、外食、買い物等、本人家族の状況、要望に合わせて事業所の多機能性を活かして柔軟に支援している。		

目 次	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源や地域の方々に協力を得ながら生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの専門のかかりつけ医に定期的に受診して適切な処置を受けている。また、主治医にも受診後の情報を提供しており、連携して対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや会話等での気づきで変化があれば併設病院に報告を行い、適切な支援が受けられる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換を行っており、早期に本人や家族と話し合う機会を設けて対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時や終末期等について家族と話し合い、方針を定めている。併設病院とも連携して支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等で定期的に学び、発生時に対応できるように備えている。また、併設病院に連絡して早期対応を心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定して避難訓練を行ったり、併設病院や施設と連携して避難出来るようにしている。水害時は地域の方が避難場所として活用できるように考えている。		

目 次	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である入居者を尊重し、ケアの一つ一つにも注意を払っている。特に言葉かけには気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の望む環境を提供できるように会話を通しての聞き取りや、自己決定のために時間をかけて働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事に、職員は寄り添う介護を心掛け、できるだけ本人の希望を叶えられるように職員間で連携して支援している。(外出等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人に選んで頂たり、家族にも協力を得て季節に合った物を持ってきてもらい、その人らしさが伺える様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを職員が理解しており、誕生日や行事等で提供している。また、家事動作を好まれる入居者には料理の下ごしらえや食器洗い等も一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量を把握し、記録している。また、食べやすいように個々に合わせて提供したり、能力に合わせて食事介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの言葉かけやケアを行っており、義歯や口腔内の観察を行っている。定期的に歯科の訪問診療も行っている。		

自己評価	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はオムツカバーを使用せず、トイレでの排泄を促したり、定時でのトイレ誘導を行っており、スムーズな排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料(ミルミル)や牛乳を提供して便秘の改善や体操や排泄を促すためのマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間はある程度決まっているが、日曜日以外は毎日入浴のため、気分の向かない日や体調不良の時等は日にちの変更を行い、無理のない入浴を提供している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時に居室やソファで休息がとれるように配慮しており、周りに気を使わずに支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書があり、いつでも確認出来るように掲示している。 誤薬が無いように職員間で氏名、日にちの確認を行ってから提供して、確実に服用できたか確認している。内服薬の変更時は記録に残し、病院へ報告出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や会話等から望んでいる事を伺い、楽しめる役割として支援している。(家事動作、散歩、塗り絵等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される方には、ゴミ捨てを兼ねた散歩を提供している。また、家族に外出(自宅等)を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所の金庫内で管理しているが、嗜好品等の買い物時は自由に使える様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出があった場合は電話で話してもらったり、知人からの電話をつないだりして、今までの関係が維持出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて気温の調節や直接日光が当たらないように配慮したり、TVの音量や電灯の明暗を確認している。また、台所やトイレは定期的に換気扇で換気を行っている。壁には季節の掲示物を作成し、掲示して季節感を感じている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆっくりと一人で過ごしたり、また、テーブルを付けたり、離したり人数に合わせてそれぞれの空間の提供を行い過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それまで使用してきた物を出来るだけ入居後も使用してもらうため、タンスや小物類、食器等のなじみの物を持ち込んでもらい、自宅での生活に近い空間のように居心地良い工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの状態を職員は理解しており、常時見守りの中で、その方に合ったケアを支援し、自立に近い生活の提供を行う。		